

第3回 里山プランワークショップ結果 概要

Aグループ

現状での課題

- ・個人所有の緑をどう残すか
- ・放置林が増加、荒れ地になっている
- ・人が入れない
- ・利用できる所は点在して、散策ができない

将来どんな里山になるとよいのか

□前提・・・・・・・・・＜長湫南部のほとぎの里をモデルとして参考にする＞

将来・・・・・・・・『人が利用できる里山 人を呼べる、人が来てくれる里山』

- 里山暮らしが体験できる場 = 拠点が必要 = おとな塾 ← こども塾に対して
こども塾とおとな塾の展開・・人を呼ぶ成功事例をつくる
例：竹の子で人を呼ぶ（現在もそれなりに人気）
古民家（移築）などの拠点で宿泊・里山暮らし体験

具体的には

拠点から展開を拡大する

- 竹林 竹林整備と竹の子狩り・・・・・・・・竹林を活用（元々長久手には竹林が多い）
竹の活用・・・・・・・・竹を材料にした、食や産業、さらにレジャー的活用
- 健康 歩いて健康づくり・・・・・・・・長久手自然歩道（東海自然歩道の長久手版）
山野辺の道、川野辺の道など
拠点をつなぐ（こども塾～スポーツの杜～色金山～御嶽山～古戦場公園～トヨタ
自動車博物館）・・道はつくらず「つなぐ」
- 広域 市内だけでなく広域で人を呼ぶ テーマは健康づくり
長久手の優位性をいかす・・・福祉のまちとしてのベース、大学もある
- 見える化 周知・情報発信・・・・・・・・マップなどで活動・イベントを周知
さらに今後やることをマップ化

意見を言うだけ、聞くだけで終わらせない。
この話し合いの結果を実現したい
実現化の手法を検討

■長久手市の里山

- ・ほとぎの里、東山、三ヶ峰、岩作、それぞれのエリアでの経緯、利用方法が全く異なる。
- ・ほとぎの里の取り組み成果・良いところなどを参考に、他の里山のあり方を検討する。

■ほとぎの里

- ・ほとぎの里は、里山のミニチュア版であり、里山の要素が一通り揃っている。
- ・稲作から餅つきまでできる。ホタルの楽しみがある。
- ・ほとぎの里に訪れた人々に思い出をつくってもらおう。思い出がつかれることが大切である。
- ・長久手のまちが眺望でき、朝陽が綺麗な名所である。
- ・高針方面へつながる古道があった。
- ・保全費用の資金源をどうするかが課題だったが、現在では社団法人として市からの保全費用を基に、市と共同で里山保全に取り組んできた経緯がある。
- ・学校との取り組みがある。
- ・名古屋市方面の猪高緑地側との連携が課題である。

それぞれ異なった環境・ほとぎの里を参考にしよう

■平成子ども塾周辺

- ・民有地、公有地に関わらず、地権者への了解が必要である。
- ・借地できた場合でも民有地の利用は所有者への許可が必要である。
- ・竹林は今の時代に合わないため、ミカン畑にするなど東山の環境を活かす。
- ・昔、東山には瀬戸方面とつながる古道があったので、古道を実際に示してはどうか。
- ・竹林整備と合わせて古道を入れる。
- ・プレイパークとしての利用が考えられる。

■岩作

- ・子どもとの関わりが持てる里山が望ましい。
- ・地権者が多数いるため、借地や土地購入は難しいと思う。
- ・都市計画道路は、トンネルにするなど環境に配慮してほしい。

コンセプト【愛着を持てる里山をつくろう！！ ～シニア・子ども・家族～】

■里山プランの重要ポイント

- ・思い出をつくれること。
- ・里山の中で実際に収穫し、実りを食べられること。楽しめること。
- ・散策して楽しめる環境づくり。
- ・親子で一緒に参加できること。
- ・子どもが地域への愛着が沸くこと
- ・子どもや家族だけでなく、シニアも里山に関われること。

■活用イメージ

- ・果樹園をつくり、実りの収穫・食べる・楽しめる環境。
- ・里山の散策・自然観察できる環境。
- ・マウンテンバイクコースを設定し、長久手市内の里山巡り、他の里山とつなぐ。
- ・現在は柴刈はやらない。薪は今の生活にはない。従来の里山の定義を変えても良いのではないか。

■里山と人と結び付けるシステム・PR方法

- ・里山と人との様に結び付けるかが重要である。
- ・里山を使えるシステムを作る必要がある。市民へのPR方法も重要である。
- ・行政とボランティアだけでは成り立たない。
- ・資金源を循環させるシステムが必要である
- ・最低でも10年は掛かる。1~2年では成果は出せない。
- ・森のサイクルに時間を合わせるべき。樹木などの自然は50年スパンが普通である。

里山のイメージ

●営みのある風景

- ・地域の方々の生活・普請があって成り立つ風景
- 例えば：図書館通りのできる前の風景、モリコロパークのできる前の風景など

●農とのふれあい

●プレイパーク

- ・“原っぱ”や小川など自然と一緒に遊べる空間
- ・子どもが自然に行ける場所
- 子どもが安全に行ける自然の情報の集約・発信
- ・アスレチック、散策路など自然を満喫できる整備がされた場所

●緑とのふれあい

- ・土・水・川・木々など身近に緑を感じることもできる場所
- 例えば：海上の森など
- 川はコンクリートの2面、3面張りになり、残念。

地域を知る

- ・地域住民への開放や連携
- ・関心のある方をどのように見つけるか

- ・里山は地域の生活の一部として管理されている
- ・地域で管理したいが、人手不足で協力者を求めている地域もある

人材確保 担い手育成

里山づくり

人の つながり

- ・ほとぎの里では団体管理されているが担い手不足が課題
- ・東部との連携による情報交換
- ・絶滅危惧種の保護

- ・里山に残る祭りや行事との連携
- ・間伐材などの有効利用

情報の 整理・発信